# めあて

フジクラ社長　伊藤雅彦
いとう　まさひこ

「誰が普通(なみ)の人と劣等(おとっ)た人とを区別しえよう　ただ人が視規(みさだ)めた水平線にまで到達しえられぬ人の世界　どんなに骨折ってもふつうの人になれないかれんな子どもを　それだからとて教育しなかったら　だんだん退歩して動物と等しくなるであろう……」

これは、「めあて」と題された、知的障害児者施設「藤倉学園」の創始者川田貞治郎氏の言葉である。川田氏は、米国で知的障害児者教育学(教育的治療学)を学んだ、日本における草分け的存在である。米国留学から帰国したのは1918(大正7)年、翌年に藤倉電線(現在のフジクラ)取締役であった中内春吉と運命的な出会いをする。

中内(旧姓藤倉)春吉は、藤倉電線の創業者である藤倉善八の実弟であり、幼少期から母により「人のために役立つ人になれ、社会のために役立つ人になれ」と教育されたとある。この教育が彼の篤志家としての志を開花させたのであろう。春吉は私財(現在の価値で約20億円と伊豆大島にある4万坪の土地、学園の建物・敷地)を寄贈し学園を設立した。学園の発展を望んでいたが、病には勝てず設立の翌年に逝去した(享年57歳)。

春吉の遺志は、フジクラの初代社長であり学園の理事である実弟、松本(旧姓藤倉)留吉に引き継がれ、以来、1952(昭和27)年に社会福祉事業法が制定されるまで、学園はフジクラの私的支援によりのみ運営されてきた。現在「藤倉学園」は、伊豆大島および東京都多摩の2カ所で、障害者支援施設、障害児入所施設やグループホームなどを運営し、150名を超える方々を支援している。

今年6月に学園は創立100周年を迎えた。フジクラグループ企業のCSR活動の原点ともいえる、この支援活動を継続的に行えることは、グループに勤務する社員の誇りと使命と認識している。私が学園を訪れ、「めあて」と題された言葉を最初に読んだとき、心が震え、今もなお心に深く刻まれている。

なんと深い愛であろうか、なんと大きな慈しみの心であろうか。学園を訪れ入園者の皆さんの曇りのない笑顔を見るたびに、この「めあて」が大切に受け継がれていると感じる。こうした慈しみの心を持つ人が増えれば、社会はもっと豊かになるのではないだろうか。